

## 1. 今月の活動

11月5日、参議院外交防衛委員会を日本リザルツの3名が傍聴。インド洋での自衛艦の給油活動を継続する新テロ対策特別措置法改正案をめぐり、参考人としてペシャワール会現地代表中村哲氏、JICA 広報室長の力石寿郎氏が招致され、アフガニスタンの現在の状況(注\*)について話した。ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟事務局長浜田昌良氏が、アフガニスタンでの結核の実態を写した写真集(注\*\*)をもとに質問、委員会終了後中村代表にペシャワール会が農業支援とともに今後結核対策にも取り組んでいただけるよう要請された。

11月15日、「パシフィック・ヘルスサミット(注\*\*\*)」の事前会合が厚生労働省国際協力室長井上肇氏の呼びかけがあり、実現した。来年6月16-18日に開催される同サミットについて事務局長のマイケル・バート氏から説明があった。参加者は約40名、(財)結核予防会(JATA)、製薬企業、外務省等からも出席があり充実した会合になった。

岐阜県高山市で「第7回人間開発グローバル会議」が開催された。事務局の三澤が全日程(11月17-21日)参加。ICA(The Institute of Cultural Affairs)文化事業協会会長・参議院議員の松田岩夫氏のスピーチを皮切りに貧困削減、環境、紛争後の平和構築などについて国内・外より集まった約300名の出席者(NGO、企業、学生ら)が討論し、最終日にアクションプランを作成した。



STBJ総会:基調講演スピーカー伊藤氏



STBJレセプション出席者: 左からSTBJ監事小林氏、結核予防婦人会中畔氏、議連より浜田、谷合、山本氏、STBJ代表理事金子氏

ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)の設立1周年の総会が、11月19日JATAで開催された。基調講演は、全国社会保険協会連合会理事長伊藤雅治氏が「結核対策とのかかわりーこれまでとこれからー」というテーマで話された。

11月22、23日、「国際連帯税(ISL)東京シンポジウム2008～日本での実現をめざして!～」が開催され、リザルツも参加。2006年にフランス、ブラジル、チリ、ノルウェー、英国の5カ国が創設国となり、国際医薬品購入ファシリティー(UNITAID)が発足した。この機関の目的は世界三大感染症の医薬品を長期的に大量に購入すること、ジェネリック医薬品の供給拡大により医薬品の価格をさげることで、それらの資金は主にISLによって賄われている。リザルツはUNITAID発足時よりオルタナンド、世界の医療団と協力し、国内でのISLの普及・啓発に努めている。

注\*2008年1-8月のアフガニスタンでの多国籍軍の空爆などによる民間犠牲者は1445人、2007年同期の39%増。ペシャワール会の伊藤和也氏拉致事件があった8月は開戦後最悪の330人。中村氏は飲料水の確保と食料自給が治安回復には必要で、自衛隊の派遣はかえって治安悪化につながると述べた。現在同国の死亡原因の第一位は感染症。結核で毎年2万人近くが死亡。結核患者の約8割が15-50歳の生産年齢でその7割が女性。

注\*\*IUATLD(国際結核肺疾患予防連合)が10月パリで開催され、リザルツも参加。リザルツが持ち帰った写真集を浜田議員にお渡ししたことにより、委員会で日本がアフガニスタンへの医療支援を強化するよう要請した。

注\*\*\*太平洋保健会議。2009年のテーマは多剤耐性結核(MDR-TB)。

## 2. リザルツ マンスリーミーティング

10月は、「アドボカシー・ミーティング」と名づけて、9月末に開催された国連ミレニアム開発目標（MDGs）ハイレベル会合の内容を振り返った。世界的金融危機により、MDGs 達成の為の資金需要が更にひっばくする中、国際連帯税導入のため日本政府がパイロットプログラムへ参加し、MDGs 達成に向けて一層の努力をお願いする旨の、国会議員宛て要望書をまとめた。参加者が各自の選挙区の議員に本要望書を送付したところ、民主党の松原仁衆議院議員から、詳細を聞きたいとお返事を頂いた。

11月は、国連開発計画（UNDP）の「法律によって貧困者の権利を守る」委員会が発表した報告書「法律をすべての人々のために」をもとに、意見交換を行った。本報告書が若干難解であり、具体的な状況について情報が不足していることから、次のステップとしてUNDP 東京事務所やアムネスティ 議連にヒアリングを予定している。

## 3. ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の活動

2009年3月、5年に一度のストップ結核パートナーシップフォーラム（以下、フォーラム）が、ブラジルのリオデジャネイロで開催されます。前々回のアメリカ・ワシントン DC、前回のインド・ニューデリーに続いて今回が3回目になります。ブラジルは、感染率はそれほど高いわけではないのですが、人口が多いこともあり、世界22か国の高負担国の1つになっています。経済的には中進国に位置しており、世界基金のドナー国（資金提供国）でありかつ、レシビエント国（資金受益国）であるという、両方の顔を持つ興味深い国でもあります。今回のフォーラム準備にあたっては、中心的な部分はインターネット上で議論して決めるという、ユニークなプロセスが取られています。ストップ結核パートナーシップの理事で、ブラジル人のTB/HIV活動家サントス氏が、このフォーラムの運営に携わっていることが、このような民主的なプロセスを形成できている大きな要因なのだろうと思います。このプロセスで決定された今回のフォーラムのテーマは、「シンプルに結核をなくそう！（Simply, stopping TB）」です。結核対策においては、MDR-TB、TB/HIV、新薬開発、新診断薬開発等々さまざまな政策が同時並行で進められていますが、「シンプルに結核をなくそう！」は、その中であって虚を突くような斬新なテーマ設定と言えます。「いろいろ新しい課題もあるけれど、そもそも通常の結核が片付いてない！普通の結核を治そう、DOTS をやろうよ」と、静かですが熱いメッセージが込められています。

## 4. パートナーの活動： リザルツボランティアの紹介 加納さん

4月よりボランティアをさせて頂いています。マイクロクレジットに興味を持ったのがきっかけで、日本リザルツの門を叩かせて頂きました。普段、大学にて机に向かって学んでいるときは異なった角度から学ぶことができる環境を与えて頂いています。10月のグローバルフェスタにおいても、リザルツに関心を持ちブースに来て下さった方と話しをし、団体によって様々な問題を扱い、またその取り組み方も多岐に渡っているということにとっても興味を持ち、充実した時間を過ごさせて頂きました。このように、スタッフの方々をはじめ、オフィス・イベント等で出会う方々との出会い・出来事を通して、様々なことを学ばせていただく一方で、自分のできることから少しずつでも行動を起こし、1つでも多くの笑顔を増やすお手伝いができれば良いなと考えています。

## 5. お知らせ

本年度も会員、関係者の皆様には大変お世話になりました。皆様におかれましてはよい年末・年始を過ごされますよう祈り致します。来月は新年明けて1月15日、予定通り第3号を発行いたしますので、今後とも宜しくお願い致します。ご質問・ご意見などございましたら編集担当木元までお願いいたします。results.japan@gmail.com

ご寄附のお願い：世界の貧困・保健問題の解決のため、懸命に政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170-9-581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。